１３.新潟県におけるてんかん診療連携―西新潟中央病院-（2025 年）

国立病院機構西新潟中央病院副院長 遠山　潤
国立病院機構西新潟中央病院臨床研究部長 福多真史

まとめ

- 2024 年度の西新潟中央病院の新規てんかん患者数は，2022 年度よりも増加傾向であったが，2019 年度以前までには回復していなかった．また，初診時の診断では，非てんかんの割合が 30%を超えていた 2022 年度から減少傾向で，今年度は 24.2%であった．
- てんかん外科件数は，2023 年度よりも 10 件以上増加していて，これは 2024 年に導入された手術支援ロボットによる定位的深部脳波検査の増加によるものと思われる．
- 研修セミナーや市民向けの講演会などは主に Web 開催で行われ，高い視聴者回数を維持していた．

１．診療実績

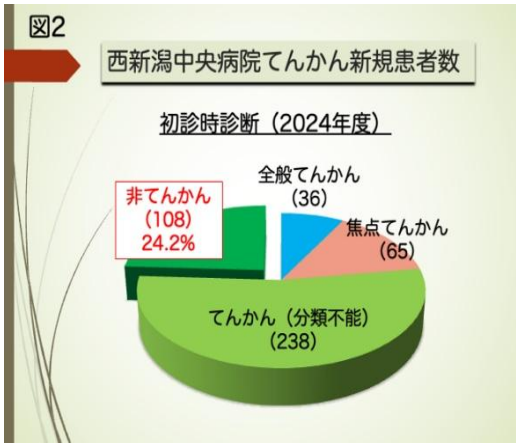
現在当院のてんかんセンターは，2024 年度 4 月からは小児神経科医 7 名（てんかん専門医 3 名），精神科医 1 名（てんかん専門医），脳神経外科医 5 名（てんかん専門医 4 名），脳神経内科医 1 名の 14 名で診療を行っている．てんかんの診療機器としては，1.5 テスラ MRI，SPECT，MEG，ビデオ脳波記録 5 台だが，このうち MEG 検査はランニングコストの問題で中止となっている．

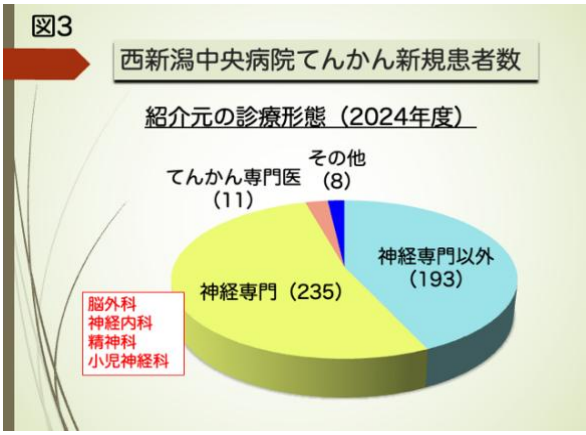
2024 年度のてんかん新規患者数は 447 名で， 2022 年度から少しずつ増加傾向が続いて 2019 年度以前（COVID-19 パンデミック以前）のレベルまでは回復していない（図 1）．未だに，受診控えの傾向が継続しているものと思われる．

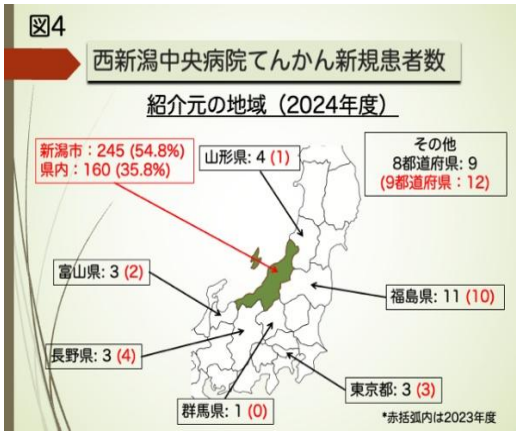
2024 年度の初診時診断では，例年と比較してその割合に著変はなかったが，非てんかん症例は 108 名（24.2%）で， 2022 年度が 30%を超えていたので，その割合は減少傾向を示していた（図 2）．

紹介元の診療形態は神経専門医（脳外科，脳神経内科，精神科，小児神経科など）とそれ以外に分けたが，2023 年度がほぼ同様の割合であったのに対して，2024 年度は神経専門医からの紹介割合がやや増加していた．（図 3）．

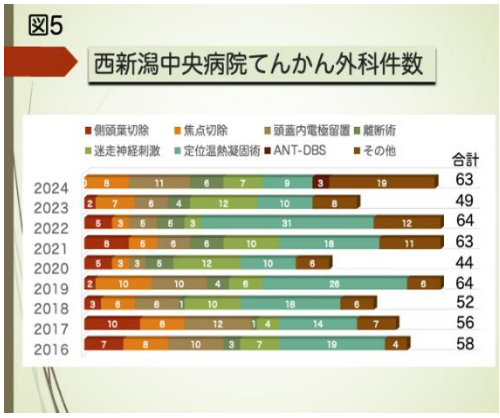
紹介元の地域は新潟市が 245 名（54.8%），新潟県全体では 405 名（90.6%）で，割合としては，2023 年度と同様であった（図 4）．近県からの紹介患者数は 2023 年度とほぼ同様であったが，相変わらず，山形県，富山県，長野県，群馬県からの紹介患者は 5 名以下と少なく，てんかん専門施設が少ない地域のてんかん治療難民に対するてんかん啓発活動が必要と思われる．







2024 年 1 月から 12 月までの当院でのてんかん外科の手術件数は 63 件で，2023 年に比較して 10 件以上増加していた（図 5）．これは 2024 年 1 月から手術支援ロボットシステムである ROSA one brain system が当院に導入され，頭蓋内電極留置は，全例硬膜下電極から定位的深部脳波検査（SEEG）になり， 11 例と増加したことが一つの要因と思われる．SEEG は手術時間も短く，患者への負担も硬膜下電極に比較して軽度であり，今まで硬膜下電極留置による頭蓋内電極が困難と思われていた患者に対しても，今後適応が拡大していくものと思われる．また 2024 年は視床前核の脳深部刺激療法（ANT-DBS）が当院でも開始され，両側側頭葉てんかんなどの症例に対して施行されている．定位温熱凝固術に関しては，視床下部過誤腫の症例は激減しているが，ROSA one brain system を用いて，再手術症例や脳深部のてんかん原性病変の症例に対して行われるようになり，これらの症例も今後増加していくものと思われる．



２．教育・啓発活動

研修活動は，2024 年度も引き続き Web 開催で行われた．医師向けのてんかん夏季セミナーは 2023 年度と同様に 56 名，看護師研修会は 2023 年度が 672 名，2024 年度が 592 名と多数の参加人数を維持していた．臨床検査技師研修会は 2023 年度が 251 名，2024 年度は 214 名と減少したが，実習型研修は 2023 年度が 10 名であったのに対して，2024 年度は 24 名に増加していた．学校や保育園の先生などに向けた専門職のためのてんかん研修は，Web 研修会にしてから参加人数が大幅に増加し，現地開催時は 100 名未満だったのが，2022 年度は 1370 名，2023 年度は 1492 名，2024 年度は 1232 名であった．Web 開催に変更してもっとも参加人数が伸びた研修会であり，高い参加人数が維持されていた．市民向けの講演会については，2024 年度は 2 回開催され，1 回目は現地参加で 35 名の参加， 2 回目は Web 開催で 535 回の視聴をいただいた．やはり研修，セミナー関係の講演会は，Web 開催にした方が参加者は圧倒的に多く，今後もこの形態で，教育・啓発活動を行っていく予定である．

３．新潟大学および地域の基幹病院との診療連携

2015 年 10 月から新潟大学脳神経外科との診療連携がはじまり，高磁場 MRI（3 テスラ，あるいは研究用の 7 テスラ）， FDG-PET 検査を大学に依頼して，てんかん外科の術前評価を行っている．特に 3 テスラ MRI と FDG-PET は焦点てんかんにおいての有用なモダリティで，近年検査を依頼する件数が増加している．

新潟県の他の地域との連携に関しては，県北部の県立新発田病院，中越地区の長岡赤十字病院，魚沼基幹病院，上越地区の県立中央病院などを地域の基幹病院として，今後さらなるてんかん診療連携の強化をはかる予定である．

４．今後の課題と改善点

2024 年度は手術支援ロボットが導入され，また薬剤抵抗性てんかんに対する DBS も開始されて，当院のてんかん外科としては大きな発展を遂げた 1 年であった．今後はより多くの薬剤抵抗性てんかん患者がてんかん外科の恩恵を受けられるように，一般市民へのてんかん診療の啓発活動を継続することが重要であると思われる．

＊てんかん治療連携協議会委員
新潟県福祉保健部障害福祉課長　島田久幸
新潟県福祉保健部障害福祉課主任　服部麻耶加
新潟県精神保健福祉センター所長　阿部俊幸
新潟大学脳神経外科助教　平石哲也
日本てんかん協会新潟県支部代表　矢部日出海
西新潟中央病院副院長　遠山潤
西新潟中央病院てんかんセンター長　福多真史